新聞程清研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所 理事長 一 杉 逸 朗 静岡市葵区追手町1-13 TEL 054-250-8750 FAX 054-250-8770

2019年1月28日

~静岡県内主要産業の四半期見通し調査(2019年1~3月期)~

海外情勢への懸念はあるが 県内の業界景気は底堅く推移

現況について

民生用電器部品、情報サービスや人材派遣など国内の事業所向 けサービスは順調を維持しているが、小売や観光・レジャーな どの対個人向けでは力強さを欠いており、総じて横ばい。

今後の見通しについて

春に向けて観光・レジャーの盛り上がりが期待され、自動 車、住宅では消費増税に伴う駆け込み需要が見込まれるな ど、総じて底堅く推移する見通し

なお、業種ごとの1~3月期の業界景気見通しは、主要20 業種のうち「観光・レジャー」が『やや上昇』で、残る19 業種が『横ばい』

『順調』が4業種、『普通』が11業種、『低調』が5業種となる見通し

調	業界景気
 查	現 見 通
項目	現し し
業	$\widehat{10}$ $\widehat{1}$
T.E.	「 12 3 月 月
種	月 月
製茶	∞ → ∞
食品・飲料	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
家 庭 紙	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
産業用紙	∞ → ∞
工作機械	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
民生用電器部品	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
自動車部品	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
二輪車部品	→
建 設	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
住 宅	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
大型小売店	600 → 600
食品スーパー	→
自動車販売	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
家電量販店	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
運輸・倉庫	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
情報サービス	\bigcirc \rightarrow \bigcirc
外 食	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
観光・レジャー	• / ()
リース	$\bigcirc \rightarrow \bigcirc$
人 材 派 遣	\bigcirc \rightarrow \bigcirc

担当:主任研究員 岩間 晴美

今月の定例調査 2019年1~3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

海外情勢への懸念拭えぬものの、県内業界景気は底堅く推移

年末に株価が2万円を割り込み、円高も警戒されるなど市場に先行き不透明感が漂う中、これまで好調を維持してきた工作機械にややブレーキがかかるなど輸出型産業には慎重な動きがみられる。一方、民生用電器部品や情報サービス、人材派遣といった国内の事業所向けサービスは、順調を維持している。とはいえ、小売や観光・レジャーなど対個人向けにおいては力強さが欠けることから、県内の産業景気は、総じて横ばいで推移している。

今後の見通しについては、米中貿易摩擦など海外情勢への懸念があるものの、工作機械は依然として需要水準が高く、春に向けて観光・レジャーの盛り上がりも期待され、自動車や住宅では消費増税に伴う駆け込み需要が見込まれるなど、総じて底堅く推移する見通し。

(1) 業界景気の現況について(2018年10~12月期)

県内産業(主要20業種)の現況(2018年10~12月期)は、『好調』の業種はなく、『順調』が「工作機械」「民生用電器部品」「情報サービス」「人材派遣」の4業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「自動車部品」「建設」「住宅」「自動車販売」「家電量販店」「運輸・倉庫」「外食」「リース」の10業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「大型小売店」「食品スーパー」「観光・レジャー」の6業種で、『不調』業種はなかった。

前回調査との比較では、「住宅」が『低調』から『普通』に1ランク上昇、「工作機械」が『好調』から『順調』に、「観光・レジャー」が『普通』から『低調』にそれぞれ1ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて(2019年1~3月期)

2019年 $1 \sim 3$ 月期の景気見通しは、全20業種のうち、長期予報で暖かい日が多く、旅行意欲が高まると予想される「観光・レジャー」が『低調』から『普通』へ『やや上昇』、残る19業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』19業種のうち、『順調』のまま『横ばい』が続くのは、自動化や省力化投資など国内需要が下支えする「工作機械」、エアコンの小・中学校向け設置特需が見込まれる「民生用電器部品」、受注ソフトが堅調な「情報サービス」、一般事務や製造、医療・介護など多くの業種で需要が見込まれる「人材派遣」の4業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、ツナ缶の需要が堅調な「食品・飲料」、高付加価値製品の増産が見込まれる「家庭紙」、軽自動車がけん引する「自動車部品」、製造業の民間工事が堅調な「建設」、消費増税前の駆け込み需要が期待される「住宅」、新型車の販売が堅調な「自動車販売」、高機能洗濯機などの販売がけん引する「家電量販店」、総じて前年並みの水準を見通す「運輸・倉庫」、暖かい日が多いと予想され外出意欲が高まる「外食」、一部で設備投資に慎重な動きはみられるものの案件数が底堅い「リース」の10業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、暖冬でリーフ茶需要の伸び悩みが予想される「製茶」、コストが高止まりする「産業用紙」、海外の大型車需要が振るわない「二輪車部品」、主力の衣料品や宝飾品などの落ち込みが懸念される「大型小売店」、冬野菜の単価下落で売上高が前年を下回ると予想される「食品スーパー」の5業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

	年 次				201	6年		2017年				2018年			
	兀	半期]	I	П	III	IV	I	П	III	IV	I	П	Ш	IV (今回調査)
対象	月	(○は調	査月)	1~③	4~6	7∼ ⑨	10~12	1~③	4~6	7~ ⑨	10~12	1~③	4~⑥	7~ ⑨	10~12
		好調		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0
	(業	順調	\bigcirc	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	4
	種	普通	\bigcirc	7	7	7	6	8	8	9	8	10	10	10	10
	数	低調	-	10	10	10	11	9	8	8	9	7	7	6	6
		不調	†	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
來	全業	種の平均	階級値	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90
業界景気		∔7≣⊞ •	_												
		好調:	5												
Ø □ □															
現況		順調:	4												
		普通:	3									—	-	\	—
				+	•	—	\	-	_		•				
		低調:	2												
		不調:	1												
業		上	昇 🗷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介 景 生	(業	やや上	昇/	1	0	0	2	0	1	0	2	1	1	1	1
の『	種	横ば	い →	19	19	20	18	20	19	20	18	18	19	18	19
業界景気の『見通し』	数	やや下	降、	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
L		下	降 🐿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年 3、 6、 9、 12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば $10\sim12$ 月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば $1\sim3$ 月期)の見通しを示す。

回答企業…県内主要20業種(215社)

注3) 平均階級値は、好調:5、順調:4、普通:3、低調:2、不調:1とする、20業種の平均値。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。 調査時点…2018年12月上旬

2019年1~3月期静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調	業界景気		静岡	県	内	主	要 産	業	り見	通	L
香項 買 業	現 況(10 -212 月)	生産量 (対比伸び率) 12月期	売上高 (対比伸び率)	生産量 (伸 び 率)	売上高 (伸 び 率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向(前10~12月期対比)	製品価格の動向(前10~12月期対比)	受 注 残 (カ月)
製茶	→	_	_	_	`		均 衡	適正	→	→	_
食品・飲料		1	1	,	1		均 衡	適正	,	→	0.5~1.0
家 庭 紙	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	1	1	7	7		均 衡	適正	7	7	0.1~1.0
産業用紙	∞ → ∞	1	7	1	*		均 衡	適正	→	7	0.1~1.0
工作機械	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	→	→	\mathfrak{D}	\mathfrak{A}		均 衡	適正	→	→	1.0~8.5
民生用電器部品	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	→	→	→	→		均 衡	適正	→	→	1.0~3.0
自動車部品		1	7	→	→		均 衡	適正	*	→	0.1~3.0
二輪車部品	∞ → ∞	→	→	7	~		均 衡	適正	→	→	0.3~1.0
建設	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	_	→	_	→	0	需要超過	適正	*	→	2.0~10.0
住 宅		l —	→	_	*		均 衡	適正	*	→	3.0~6.0
大型小売店		l —	→	_	`*	-	供給超過	適正	→	→	_
食品スーパー		l —	→	_	`*	-	供給超過	適正	→	→	_
自動車販売	\square \rightarrow \square	_	1	_	1	—	均 衡	適正	→	→	_
家電量販店	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	_	→	_	1	—	供給超過	適正	→	→	_
運輸・倉庫	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	_	→	_	→		均 衡		→	→	_
情報サービス	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	-	→	-	→		需要超過	_	→	→	_
外 食	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	-	→	-	→	—	均 衡	_	→	→	_
観光・レジャー	• 1 0	-	×	-	7	—	供給超過	_	→	→	_
リース	$\mathbb{O} \to \mathbb{O}$	-	7	_	→	—	_	_	_	_	
人材派遣	\bigcirc \rightarrow \bigcirc	_	7	_	7		需要超過		7	→	-
〈特別調査	2019年1~6月	期	半期見追	10)							
家 具	⇔ → ⇔	→	→	→	→	\Diamond	供給超過	適正	7	→	0.5~2.0
楽器	⇔ → ⇔	 →	→	→	→	0	均 衡	適正	→	→	_

表の見方と注意

業界景	景気の現 況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好	調 🌣	上 昇 ቖ	非常に増加・上昇 (+10%以上)	100∼90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順	調	やや上昇 🖊	増加・上昇 / (+3~+9%)	89~80% 🔾	需 要 超 過	過少
普	通 ^①	横 ば い →	横 ば い (+2~△2%) →	79~70%♦	均 衡	適正
低	調	やや下降 🔪	減 少 ・ 下 降 \ (△3~△9%)	69~60% •	供給超過	過多
不	調 于	下 降 🐿	非常に減少・下降 🛇 (△10%以下)	59%以下●	非常に供給超過	非常に過多

⁽注) 特別調査(家具、楽器) は半期ベース (7 ~ 12月期の現状と 1 ~ 6 月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。 半期調査対象企業… 2 業種の企業 5 社。

主要業種の現況と1~3月期の景況見通し

業種	業界天気	暖冬予想でリーフ茶需要は伸び悩みを予想
製	•	(現 況)・製茶問屋の売上高は、前年をやや割り込んだ模様。暖かい日が続き、リーフ茶販売には不利に働いた。秋冬番茶は台風24号による塩害などの影響でやや減産、相場も前年をわずかに下回った。
茶	*	(見通し)・製茶問屋の売上高は、前年をやや下回る見通し。例年よりも 暖かい日が続くと予想され、リーフ茶の販売には逆風となり そう。新茶期に向け在庫調整を図る時期となるが、とくに高 価格帯の商品は厳しい。日本茶カフェや海外市場開拓など、 新たな取組みによる需要拡大が期待される。

業種	業界天気	売上・生産量は増加を見込むも、収益は悪化する見通し
食品・飲料	□□□	(現 況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を+5%程度上回った模様。県内のツナ缶生産量は、内需が堅調で前年を+5%程度上回った。飲料缶類の生産量は、天候不順で低調だった前年実績を+10%程度上回った模様。 (見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年をやや上回る見通し。健康志向を背景にツナ缶の需要は堅調に推移すると見込まれるが、原料のキハダマグロの高騰で、収益は悪化する模様。飲料缶類は、長期予報で高めの気温が予想されているため需
		要が減退し、生産量は前年を下回る見通し。

業種	業界天気	トイレ紙は増産も、値上げには時間を要する見込み
家		(現 況)・家庭紙生産量は、前年をやや上回った模様。再生トイレ紙は 前年をやや上回ったが、出版不況で原料古紙が不足しており、 輸送費などコストも高止まりしている。ティッシュは、輸入 品の値上がりにより、国産品も価格が上昇した。
庭 紙 		(見通し)・家庭紙生産量は、前年をやや上回る見通し。再生トイレ紙は 前年に新設した設備が本格的に稼働し、高付加価値製品を中 心に生産が増えそう。一方、コストは高止まりしているが、 通常品の値上げにはやや時間がかかりそう。ティッシュは前 年並みを見込み、値上げの定着を期待。

業種	業界天気	段ボール原紙は加工食品などで底堅い需要
産業用紙	→	(現 況)・産業用紙生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は前年をやや上回ったが、原料となる古紙は、輸出価格の上昇で国内相場も上昇。こうしたコスト上昇を受け、値上げが浸透しつつある。白板紙の生産量は、前年並みとなった。(見通し)・産業用紙生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙は、加工食品向けなどの需要が底堅く、ネット通販の普及で新たな需要も拡大し、前年をやや上回る。原料古紙価格は落ち着きを取り戻し安定化しそう。白板紙は、前年並みの水準が見込まれ、コスト高止まりの中、値上げが進むとみられる。

☆ 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が10~12月期、下段が 1~3月期

業種	業界天気	メインの中国市場の需要減で、前年実績を下回る見通し
工作機械		 (現 況)・全国および県内の受注額は、前年を▲5%程度下回って推移した模様。外需は、メインの中国市場でブレーキが掛かり、前年を▲15%程度下回ったとみられる。一方、内需は自動車関連が好調で、前年並みとなった。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を▲20%前後下回って推移する見通し。メインである中国市場における需要減退が主因。一方、国内は自動化や省力化投資の需要が下支えするとみられ、前年並みを維持する見込み。ただし全体では、需要水準は依然として高い。

業種	業界天気	業務用エアコンは小・中学校向け設置特需で前年を上回る
民生用電器部品	○→○	 (現 況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、新製品投入効果で前年を+10%程度上回り、業務用も同+15%前後上回って推移した模様。冷蔵庫の出荷台数は、底堅い買い替え需要を背景に、前年並みを維持した。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、安定した需要に支えられ、前年並みで推移する見通し。業務用も、猛暑対策で夏前までに小中学校向けの設置が求められており、前年を上回る見込み。冷蔵庫は、少人数世帯向けのコンパクトで高性能なタイプが人気で、前年水準を確保する見込み。

業種	業界天気	国内販売は軽自動車がけん引、県内生産量は前年並み
自動車部品	○↑○	(現 況)・全国の自動車生産台数は、前年比+3%程度上回って推移した模様。今夏の豪雨や地震で生産が一時停止した完成車メーカーで、挽回生産が実施された。県内部品メーカーの生産量は、概ね前年実績を確保した模様。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。国内販売は、一部完成車メーカーで無資格検査問題の影響が残るものの、軽市場が好調に推移する見込み。輸出も、減速が懸念される北米を除き、堅調な動きが見込まれる。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移する見通し。

業種	業界天気	海外の大型車需要振るわず、県内生産は前年をやや割り込む
二輪車部品		 (現 況)・全国の完成車生産台数は、前年並みで推移した模様。原付2種は夏季が好調だった反動で前年比減少しているものの、中・大型車は前年をやや上回る水準で推移。県内部品メーカーの生産量は、前年実績を確保した模様。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年水準を維持する見通し。原付クラスは堅調だが、部品の海外調達が進んでおり、県内部品生産への寄与は限定的。また、景気減速が懸念される欧米の大型車需要は盛り上がりに欠けそうで、県内二輪車部品の生産は、前年をやや割り込んで推移するとみられる。

登 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が10~12月期、下段が 1~3月期

業種	業界天気	公共は前年割れ、民間は製造業が堅調で前年並みを確保
建	□→	(現 況)・県内の公共工事契約額は、前年をやや上回った模様。市役所 庁舎など大型の建築案件の契約が進んだ市町関係が堅調だっ た。民間の工事費予定額も、前年をやや上回った模様。物流 関連の大型工事が相次いだことが寄与した。(見通し)・県内の公共工事契約額は、堅調に推移した前年の水準をやや
設		下回る見通し。市町関係の発注は弱含むとみられる。民間の 工事費予定額は、前年並みとなる見通し。複数の大手メーカー が総工費50億円を超す技術棟の新設を予定するなど、製造業 は堅調な推移を見込む。

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要で、持家は前年を上回る
住		(現 況)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや上回る1,000戸/月程度の水準で推移したとみられる。貸家は、市場の停滞感が強く、前年をやや割り込んだ模様。分譲は、マンションが前年割れとなり、全体では前年をやや下回ったと予想される。
宅		(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回る見通し。10月に予定されている消費増税前の駆け込み需要が拡大するとみられる。貸家は、地主の動きが鈍く、弱含みが続く。分譲は、大型タワーマンションの着工があった前年の水準を下回る見通し。

業種	業界天気	主力の衣料品や飲食料品が伸び悩み、前年をやや下回る
大型小売店	→	 (現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。 百貨店の販売額は、暖かい日が続いたことから冬物衣料が振 るわず、前年を下回った。総合スーパーの販売額は、精肉の 単価下落などが響き前年をやや下回った。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込んで推 移する見通し。百貨店は、主力の衣料品に加え、株価下落で 宝飾品をはじめとした高額品の落ち込みが懸念される。総合 スーパーは、冬野菜など生鮮品の単価下落を受け、主力の飲 食料品の伸び悩みが予想される。

業種	業界天気	冬野菜の単価下落で、前年をやや下回る見通し
食品スーパー	→	 (現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移した模様。北海道地震の影響でニンジンやジャガイモなどの単価が上昇し、農産品の販売額は前年をやや上回った。一方、肉類は、鶏肉の単価下落で前年を下回った。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移する見通し。暖冬による豊作で、ダイコンやハクサイなどの冬野菜の単価が下落し、農産品の販売額は前年をやや下回る見通し。肉類も、暖冬が続けば鍋物用食材の需要低迷が懸念される。

登 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が10~12月期、下段が 1~3月期

業種	業界天気	新型車効果もあり登録車は前年並み、軽自動車は堅調
自動車販売		 (現 況)・県内の登録車販売台数は、前年を+6.5%上回った。各社の新モデル投入効果に加え、完成検査問題で前年に販売減となっていた反動で伸びた。軽自動車は、各社の主力モデルが好調で、前年を+5.8%上回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年を上回って推移する見通し。前年の販売が低調だったことに加え、新型車の販売が堅調で消費増税前の駆け込み需要も徐々に顕在化してくる見通し。軽自動車も、各社の人気モデルの販売が堅調で、前年を上回る見通し。

業種	業界天気	高機能洗濯機などがけん引し、前年をわずかながら上回る
家電量販	□→←	(現 況)・県内の家電販売額は、前年並みで推移した模様。薄型テレビは、地デジ切り替え時の製品が買い替え時期を迎え、前年を+10%程度上回った。一方、調理家電や掃除機は買い替え需要の一巡で前年をやや下回った。 (見通し)・県内の家電販売額は、前年をわずかながら上回る見通し。薄型テレビは底堅い買い替え需要に支えられ、前年実績を維持する見込み。洗濯機は、乾燥機能が充実したドラム式が人気
店		で、販売額は前年を上回りそう。一方、パソコンやデジタル カメラの需要は低迷しており、前年を下回るとみられる。

業種	業界天気	トラック輸送量は、前年並みの水準を確保
運輸・倉庫	□□□	(現 況)・県内のトラック輸送量は、食料品がやや落ち込んだ一方、輸送用機器が堅調に推移し、全体では前年並みの水準を確保した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や紙・パルプの荷動きが堅調だったことから、前年をやや上回ったとみられる。(見通し)・県内のトラック輸送量は、業種によってばらつきがあるものの、総じて前年並みの水準となる見通し。燃料価格の高止まりにより、厳しい経営環境が続くとみられる。倉庫の入出庫高は、年度末に向けて電気機械や自動車関連の荷動きに期待がかかり、前年をやや上回る見通し。

業種	業界天気	システム等管理運営受託が堅調、売上は前年並み
情報サービス	○→○	 (現 況)・全国の売上高は前年をやや上回った。主力の受注ソフトが好調だったほか、クラウド化の進展でシステム等管理運営受託も堅調に推移した。県内も受注ソフトが好調で、従来型案件の受託が増加した。 (見通し)・全国の売上高は、前年並みの水準となる見通し。システム等管理運営受託は、クラウド化で引き続き堅調に推移すると見込まれる。受注ソフトも案件には事欠かないが、SE不足が常態化しており、すべての案件に対応できないケースも想定される。

☆ 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が10~12月期、下段が 1~3月期

業種	業界天気	外食需要は底堅く、前年をやや上回る見通し
外		(現 況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや下回った模様。外食需要は底堅く、大手チェーンによる販促キャンペーンが需要の顕在化に貢献した。しかし、県西部を中心に前年の大河ドラマ特需の反動で客数が減少した。
食		(見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。外食需要は堅調で、長期予報でも暖かい日が多いとされており、外出意欲は高まる模様。一方、消費増税を控え、キャッシュレスにも対応するレジスターの更新、価格改定やメニュー見直しなど、さまざまな経営判断を迫られそう。

業種	業界天気	伊豆縦貫道の延伸でドライブ先として注目を集めそう
観光・レジャー	→	 (現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。昨秋に被災地で復興割引クーポンが発行され、多くの観光客が北海道や瀬戸内エリアに流れた。また、紅葉の色づきが悪く、秋の行楽需要の動きがやや鈍かった。 (見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年をやや上回る見通し。国内需要は安定している上、長期予報では暖かい日が多く、旅行意欲は高まると予想される。伊豆地域は、伊豆縦貫道の延伸に加えて、道の駅の新設や改装が相次いでおり、首都圏からドライブ先として改めて注目を集めそう。

業種	業界天気	輸出型製造業などで設備投資減速の懸念
		(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みで推移した模様。製 造業を中心に企業の設備投資意欲は底堅く、リースの利用件
IJ		数も増加したとみられる。機種別では、工作機械が伸び悩ん
I	→	だ一方、自動車など輸送用機器が好調だった。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見通し。不
		安定な海外情勢を背景に、一部の輸出型製造業者などは設備
ス		投資に慎重な姿勢を示しており、リースの利用も減速する懸 念がある。県内事業者間では、案件獲得に向けた競合が激し
		さを増しており、厳しい収益環境が続く見通し。

業種	業界天気	製造や医療・介護などの業種で需要を見込む
人材派遣	○→○	 (現 況)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回った模様。営業や販売の分野では前年割れとなったが、一般事務や製造の分野で旺盛な需要が続いた。ただし、供給サイドでは人手不足から派遣スタッフ確保が困難な状況が続いた。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。一般事務の分野で求人を出す企業が増加するとみられるほか、製造や医療・介護など多くの業種で需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、人材の確保が難しく、マッチングは困難な状況が続き、伸びは限定的となる見通し。

☆ 好調 ○順調 ○普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が10~12月期、下段が1~3月期

業種	業界天気	新築住宅の着工増で、家具の需要も喚起
家 具(半期ベース)	•	(現 況)・県内の木製家具出荷額は、前年実績をやや下回った模様。O 7~12月期 EM受注は堅調だったが、主力の中・高価格帯家具は苦戦した。また、輸送コスト上昇分を価格に転嫁することができず、収益減を余儀なくされた業者もみられた。 (見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年並みで推移する見通し。10月1~6月期 の消費増税に伴う駆け込みにより、新設住宅着工戸数が増加し、家具需要も喚起されると予想される。ただし、若年層を中心に実用性の高い低価格帯家具へのシフトは着実に進んでおり、出荷額は前年水準を確保する程度にとどまる見通し。

業種	業界天気	中国を中心とした外需に期待、前年並みを見込む
楽 器(半期ベース)	∞ →	 (現 況)・県内メーカーの楽器販売額は、前年をわずかに下回った。国7~12月期 内は低迷が続いたが、海外は中国で主力のピアノが好調で、北米なども堅調に推移した。ただし、海外への生産移転が進んだことから、国内生産および輸出は伸び悩んだ。 (見通し)・県内メーカーの楽器販売額は、前年並みで推移する見通し。1~6月期 国内市場は、少子化などの影響で縮小傾向は避けられないが、海外は、中国を中心とした新興国市場の開拓により、伸びが期待できる。主力のピアノのほか、管楽器なども前年比増加が予想される。

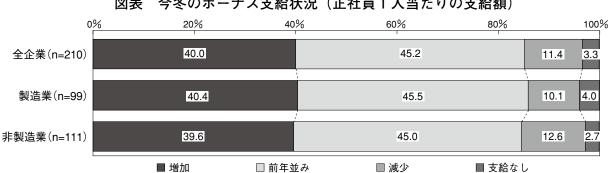
☆ 好調 ○ 順調 ○ 普通 ● 低調 → 不調 業界天気は上段が 7~12月期、下段が 1~6月期

ウォッチング

今冬のボーナス支給額「増加」企業は4割を占める

県内企業に、今冬のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答 した企業は40.0%にのぼった。前回調査(2017年12月)と比べると、「増加」(前回調査 32.8%) は + 7.2 ポイント上回り、「前年並み」(前回調査 56.4%、今回調査 45.2%) は▲ 11.2ポイント減少した。

業種別にみると、運輸・通信業(62.5%)、建設業(58.8%)、輸送用機器(56.5%)で「増 加 | と回答した企業が5割を超えた。一方、食料品(22.7%)、卸・小売業(27.7%)では 3割を下回り、業種間の差が目立つ。



図表 今冬のボーナス支給状況(正社員1人当たりの支給額)

調查要領:調查時点2018年12月、調查対象企業数593社、回答社数210社、有効回答率35.4%